

平成30年度以前入学者

平成31年3月18日
教養学部教務課前期課程

『履修の手引き』記載内容の変更について

『履修の手引き』記載内容について、平成31年度から別添のとおり変更となります。
本変更は、平成30年度以前に入学した学生にも適用されます。

記

1. 基礎科目「自然科学 数理科学」の「微分積分学」「線型代数学」について、従来 S2 ターム+A セメスター（週1コマ3単位）でセメスターを跨いで開講していましたが、平成31年度開講の授業より、以下のように S2 ターム（週1コマ1単位）と A セメスター（週1コマ2単位）に分割して開講されます。それぞれの科目で定期試験が実施され、それぞれ成績評価がされます。

【変更前】

【変更後】

「微分積分学」（3単位科目）→「微分積分学①」（S2 ターム1単位科目）&「微分積分学②」（A セメスター2単位科目）

「線型代数学」（3単位科目）→「線型代数学①」（S2 ターム1単位科目）&「線型代数学②」（A セメスター2単位科目）

2. 数理科学の各講義科目と対応する演習科目の定期試験を合併試験とします。

- (1) 「数理科学基礎」の定期試験は、「数理科学基礎演習」との合併試験として行います。
- (2) 「微分積分学①」および「線型代数学①」の定期試験は、「数学基礎理論演習」との合併試験として行います。
- (3) 「微分積分学②」の定期試験は「微分積分学演習」との合併試験として行います。
- (4) 「線型代数学②」の定期試験は「線型代数学演習」との合併試験として行います。

3. 従来 A セメスターに実施していました「数理科学基礎」(S1 ターム) の受験資格 A (病気、事故など不足の事態により欠席した者) による追試験は S2 タームに行います。

Q&A

Q 「微分積分学①」と「微分積分学②」、または「線型代数学①」と「線型代数学②」は同じ成績評価になりますか？

A 別科目になるので、それぞれの成績評価となります。

Q 降年した場合は、従前のように降年前の2S2タームに「微分積分学①」「線型代数学①」の他クラス聴講の手続きをしていなければ降年後の1Aセメスターに「微分積分学②」「線型代数学②」を履修することはできませんか？

A 「微分積分学②」「線型代数学②」からの履修も可能になります。

Q 追試験も「微分積分学①」、「線型代数学①」、「微分積分学②」、「線型代数学②」のそれぞれの科目で実施されますか？

A それぞれの科目で定期試験・追試験が実施されるようになります。

Q Sセメスターを休学し、Aセメスターから復学した場合、「微分積分学②」、「線型代数学②」から履修することはできますか。

A 履修することが可能です。

Q 合併試験とはどういうことですか？

A 例えば、「数理科学基礎」と「数理科学基礎演習」を履修している場合、「数理科学基礎」の定期試験の成績が、「数理科学基礎演習」の評価にも用いられることを意味しています。

Q 追試験も合併試験になるということですか？

A 受験資格A（病気、事故など不足の事態により欠席した者）の場合は合併試験となります。受験資格C（定期試験を欠席した者または成績が「不可」だった者）の場合は、合併試験とはならず、追試験の成績が演習科目の成績に用いられることはありません。

Q 「微分積分学演習」、「線型代数学演習」を他クラス聴講している場合で、対応する「微分積分学②」、「線型代数学②」を履修していない場合は、定期試験を受験する必要がありますか？

A 数理科学の各講義科目と対応する演習科目のみを履修している場合は、「〇〇演習」は平常点で評価されますので、定期試験を受ける必要はありません。

（例：既に「微分積分学②」の単位を取得しており、「微分積分学演習」を他クラス聴講している場合、「微分積分学演習」は平常点で評価されます。逆に、「微分積分学演習」の単位を取得しており、「微分積分学②」を他クラス聴講しているような場合は、「微分積分学②」の定期試験を受験する必要があります。なお、「微分積分学②」と「微分積分学演習」を他クラス聴講している場合は、「微分積分学②」の定期試験（合併試験）の成績が、「微分積分学演習」の評価にも用いられることとなります。）

(8) 自然科学 数理科学

対象科類	取得すべき 単位数	科目毎の 単位数	科目毎の 開講形態	開講ターム・セメスター		
				1 S1	1 S2	1 A
理一	1 2	1 or 2	ターム制 or セメスター制 週1コマ or 週2コマ	○	○	○
理二・理三	1 0					

数理科学は理科生の必修で、各科目1単位または2単位の科目群である。1 S1・1 S2ターム、1 Aセメスターにクラス指定で開講される。

各科目において取得すべき単位数、開講ターム・セメスター、単位数・コマ数は下表のとおりである。

科目名	取得すべき単位数		開講ターム・セメスター毎の単位数・コマ数		
	理一	理二・理三	1 S1	1 S2	1 A
数理科学基礎	2	2	2 (週2コマ)	—	—
微分積分学①	1	1	—	1 (週1コマ)	—
微分積分学②	2	2	—	—	2 (週1コマ)
線型代数学①	1	1	—	1 (週1コマ)	—
線型代数学②	2	2	—	—	2 (週1コマ)
数理科学基礎演習	1	任意選択	1 (週1コマ)	—	—
数学基礎理論演習	1	任意選択	—	1 (週1コマ)	—
微分積分学演習	1	1	—	—	1 (隔週)
線型代数学演習	1	1	—	—	1 (隔週)

- ※ 「数理科学基礎演習」は1 S1タームの講義「数理科学基礎」に、「数学基礎理論演習」は1 S2タームの講義「微分積分学①」および「線型代数学①」に、「微分積分学演習」は1 Aセメスターの講義「微分積分学②」に、「線型代数学演習」は1 Aセメスターの講義「線型代数学②」に、それぞれ対応して行われる。また、各講義科目の定期試験は、対応する各演習との合併試験として行われ、その評価は各演習の成績にも反映される。（演習科目のみを他クラス聴講している場合および演習科目のみ単位取得している場合を除く）
- ※ 理科二類生・理科三类生は、「数理科学基礎演習」および「数学基礎理論演習」の履修は任意となるが、単位取得した場合は「基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数」（p. 28）に含めることができる。
- ※ 他クラス聴講（p. 40）を行う場合には、自分が所属する科類を対象とする授業を申請すること。（ただし、後期課程の専門科目の必修科目と重複している等、時間割上の都合がある場合を除く）
- ※ 他クラス聴講または、文科生が要求科目として「微分積分学①」、「微分積分学②」、「線型代数学①」、「線型代数学②」を履修する場合、S2タームとAセメスターを通して履修することを推奨する。

(2) 追試験

一部の基礎科目については、定期試験を欠席した者または成績が「不可」だった者は、願い出により追試験を受けることができる場合がある。**ただし、レポート・平常点等で採点する授業においては追試験を行わない場合もある。**展開科目、総合科目、主題科目（PEAKの科目を全学自由研究ゼミナールとして履修する場合を除く。）については、追試験は実施しない。

基礎科目・科目名		追試験実施の有無	受験資格(タイプ)	申請手続き	審査の有無	成績(点数)上限	
外国語		有	A	窓口	有	75点	
			B	窓口	有	50点	
情報		有	A	窓口	有	75点(注)	
			C	UTAS	無	50点	
身体運動・健康科学実習		無	—	—	—	—	
初年次ゼミナール		無	—	—	—	—	
社会科学		無	—	—	—	—	
人文科学		無	—	—	—	—	
自然科学	基礎実験	無	—	—	—	—	
	数理学	数理学基礎	有	A	窓口	有	75点(注)
		微分積分学①	有	A	窓口	有	75点(注)
				C	UTAS	無	50点
		微分積分学②	有	A	窓口	有	75点(注)
				C	UTAS	無	50点
		線型代数学①	有	A	窓口	有	75点(注)
				C	UTAS	無	50点
		線型代数学②	有	A	窓口	有	75点(注)
				C	UTAS	無	50点
		数理学基礎演習	※	—	—	—	—
	数学基礎理論演習	※	—	—	—	—	
	微分積分学演習	※	—	—	—	—	
	線型代数学演習	※	—	—	—	—	
	物質科学	力学	有	A	窓口	有	75点(注)
電磁気学		有	A	窓口	有	75点(注)	
熱力学		有	A	窓口	有	75点(注)	
化学熱力学		有	A	窓口	有	75点(注)	
構造化学		有	A	窓口	有	75点(注)	
物性化学		有	A	窓口	有	75点	
	C		UTAS	無	50点		
生命科学	生命科学	有	A	窓口	有	75点	
			C	UTAS	無	50点	
	生命科学 I	有	A	窓口	有	75点(注)	
生命科学 II	有	A	窓口	有	75点(注)		

(注) ただし、他クラス聴講生は50点を上限とする。

(受験資格A) 病気・事故など不測の事態により定期試験を欠席したと認められた者。

(受験資格B) 受験資格A以外の特別な事由（事前届出）により定期試験を欠席したと認められた者。

(受験資格C) 定期試験を欠席した者または成績が「不可」だった者。

※ 対応する数理学講義科目（数理学基礎、微分積分学①②、線型代数学①②）の受験資格Aによる追試験の成績が反映される。（演習科目のみを他クラス聴講している場合および演習科目のみ単位取得している場合を除く）

具体的な申請の時期、追試験実施の日程は後日掲示で確認すること。

① 追試験の申請および許可

1) 受験資格A

基礎科目「外国語（既修、初修）」、「情報」、「数理学（数理学基礎、微分積分学、線型代数学、数理学基礎演習、数学基礎理論演習、微分積分学演習、線型代数学演習）」、「物質科学」、「生命科学」の各科目の定期試験を病気、事故など不測の事態により欠席した者で、追試験の受験を希望する者は、定期試験後の定められた期間に、「欠席追試験受験願」（教務課前期課程窓口にて配付）を教務課前期課程窓口にて提出、出願すること。なお、交通機関の遅延を理由として追試験の受験を希望する場合は、欠席した試験の実施日から2日（土日祝除く）以内に出願する必要があるため、注意すること。

出願の際は、病院の診断書、交通機関の事故証明書、遅延証明書等の**公式文書**を必ず「欠席追試験受験願」に添付すること。

これらの書類を提出した学生について、欠席の理由および履修状況を審査の上、受験許可者を掲示板で発表する。

2) 受験資格B

基礎科目「外国語（既修、初修）」の定期試験を特別な事由により欠席する予定のある者で、追試験の受験を希望する者は、定期試験前の定められた期日までに、「欠席追試験受験願」（教務課前期課程窓口にて配付）を教務課前期課程窓口にて提出、出願すること。その際、証明書類等を必ず添付すること。

これらの書類を提出した学生について、欠席の理由および履修状況を審査の上、受験許可者を掲示板で発表する。

3) 受験資格C

基礎科目「情報」、「数理学（微分積分学、線型代数学）」、「物質科学（物性化学）」、「生命科学（生命科学）」の定期試験を欠席した者または成績が「不可」だった者で、追試験の受験を希望する者は、定められた期間にUTASログイン後の【追試験受験願】画面から、追試験の出願をすること。

4) 注意事項

イ) 他クラス聴講生（p. 40）及び文科生で要求科目として履修している場合もクラス指定の学生に準じて扱う。

ロ) 1年次終了時の留年（p. 44）をした場合は、その直後の追試験は受験できない。

ハ) 2年次終了時の留年および降年（p. 44）をした場合は、その直後の追試験を受けることができる。

ニ) 原則として、S1ターム開講科目の追試験は、S2ターム期間中に行い、S2ターム・S Semester開講科目（の追試験は、次のA1ターム（A Semester）開始後に行う。A1ターム・A2ターム・A Semester開講科目の追試験は、次のS1ターム（S Semester）開始後に行う。ただし、「微分積分学②」「線型代数学②」の受験資格Aに該当する2年生及び「電磁気学」「構造化学」「生命化学Ⅱ」の追試験は、当該科目の開講された年度内に行う。

ホ) 追試験の出願期間、追試験を行う日時・教室は掲示および教務課前期課程ホームページで発

表する。

② 追試験の成績

追試験の成績は100点満点で採点されるが、以下のとおり点数の上限が定められており、上限以上の点数は切り捨てられる。

1) 受験資格A

75点を上限とする。ただし、「情報」、「数理科学」、「物質科学」、「生命科学」の他クラス聴講生（p. 40）は50点を上限とする。

2) 受験資格Bおよび受験資格C

50点を上限とする。

3) 注意事項

イ) 追試験の成績が定期試験の成績を下回る場合は、定期試験の成績をもってそのターム・セメスターの成績とする。

ロ) 2S1ターム・2S2ターム・2Sセメスター分の追試験のうち、「数理科学基礎」、「物性化学」、「生命科学」（理科一類生対象）の成績は進学選択の平均点に算入されるが、その他の科目の成績は算入されない。